

DATA FILE



六方晶系

名前	GREEN TOURMALINE(グリーントルマリン) / 緑電気石
化学組成	$\text{Na}(\text{Li}, \text{Al})_3\text{Al}_6(\text{BO}_3)_3\text{Si}_6\text{O}_{18}(\text{OH})_4$
色	緑色
光沢	ガラス光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	なし
断口	不規則
硬度	7.5
比重	3

※グリーントルマリンにはさまざまな種類があるため、最も一般的なシニア電気石のデータを掲載しています。

グリーントルマリン

GREEN TOURMALINE

劈開はないが、ハンマーでたたくと不規則な断口があらわれる。

グリーントルマリンの結晶。

緑色の電気石で、ガラスのような光沢を示す。

結晶は三角柱状や六角柱状で産することが多い。

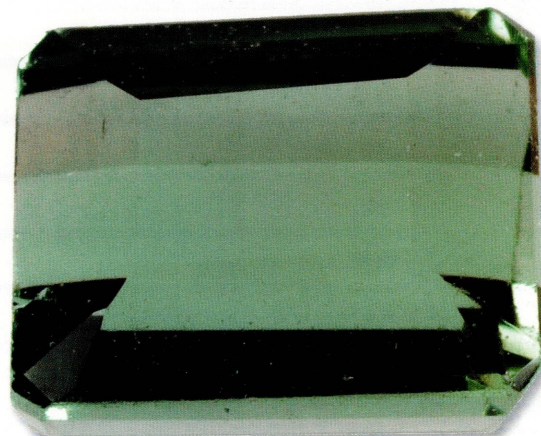
素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。



緑色の電気石

グリーントルマリンとは「緑色の電気石」の呼称であり、大部分はロシア電気石だが、苦土電気石に属するものもある。ロシア電気石の場合は微量成分の第一鉄などの影響で緑色になり、「ベルデライト」とも呼ばれる。一方、苦土電気石のなかでクロムを含有する含クロム苦土電気石やクロム苦土電気石、そのほかバナジウムを含有する苦土電気石も鮮やかな緑色になる。また、光源の方向や見る角度によって異なる色に見える多色性を持つものも存在する。

▼カッティングが施されたグリーントルマリン。

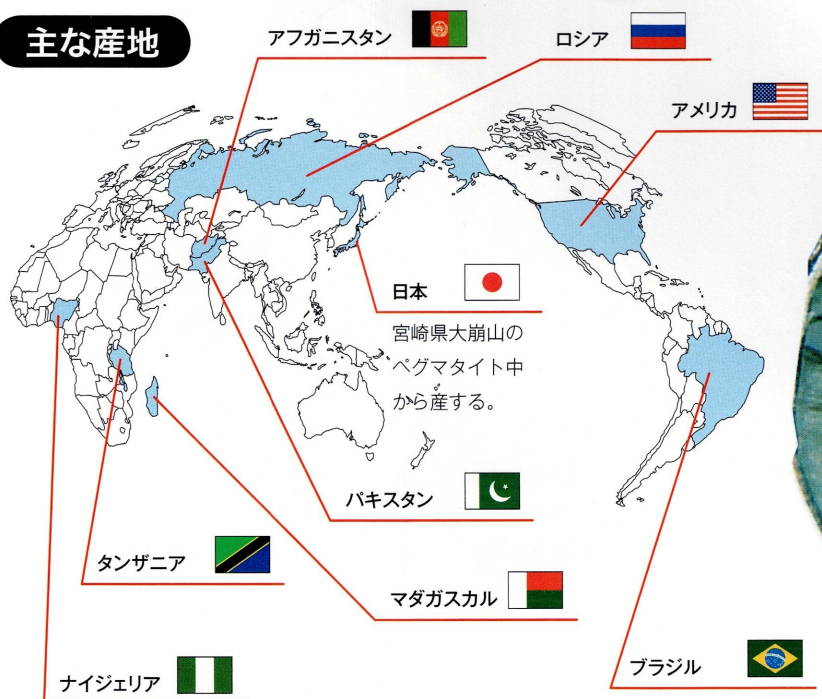


エメラルドに酷似

16世紀、ブラジルで緑色の石が発見され、当初はエメラルドであると思われた。のちにこの石は緑色のロシア電気石（グリーントルマリン）であることが判明したが、外見がエメラルドによく似ていることから「ブラジル・エメラルド」とも呼ばれるようになった。

▲宮崎県大崩山で産出したグリーントルマリン。

主な産地



▼緑色とピンク色があらわれた電気石。このような電気石は「ウォーターメロントルマリン」と呼ばれる。

